

■第3回目の講座は7月9日(土)富田林市の滝谷不動明王寺付近にある、奥の谷で開催しました。

この日の参加者は19名。

募集時の計画とは違い、参加者の安全を考えて貸切バスでの移動となりました。

参加者たちは3回目の参加とあって、仲良く話をしながら開催地に向かう姿が見られました。



今回お世話になる「富田林の自然を守る会」が使用されている母屋が見えてきました。



到着してまずはスパイク付きの長靴などに履き替えて装備を整えているところ。



準備が出来たら、団体の代表の田淵さん(左写真中央)から、この奥の谷の保全に関する簡単なお話と、本日の活動のお話がありました。



この日は午後からの天候が心配されたため、午後から予定していた木の伐倒を午前中に行うため移動しようとしたさなか…

写真のように突然の大雨！屋久島のような気候(スコール)が思い起こされます。



テント下で雨宿りしました。



10分程で止んだので、本日のメインとなる木の伐倒や階段作りに必要な道具を分担して運び出している様子。



今回実習で使う現場の様子と、熱心に講師の話を聞く参加者の皆さん。



木を切るのははじめてな参加者が殆どでしたが、講師からの指示に従いノコギリを使って、木の伐倒に必要な切れ込み「受け口・追い口」を作りました。



予め木の上部に巻き付けてあったロープと滑車を使って定められた方向へ引っばっている様子。



皆で協力して木を倒すことに成功しました。



倒した木の切断面。完全に切ってしまうのではなく、端を残しておくことで倒れた衝撃での跳ね上がりによる事故が起こらないようにしています。



倒れた木の枝打ちをしている様子。



切断した木は皮を剥いておくことで、木の分解要因を減らし、長期保管が可能になります。



階段作りに使う杭を背負子(しよいこ)で運搬している様子。階段作りは主に林の奥の方で行いました。



横木をあわせて「かけや」という道具で杭を打ち込んでいるところ。

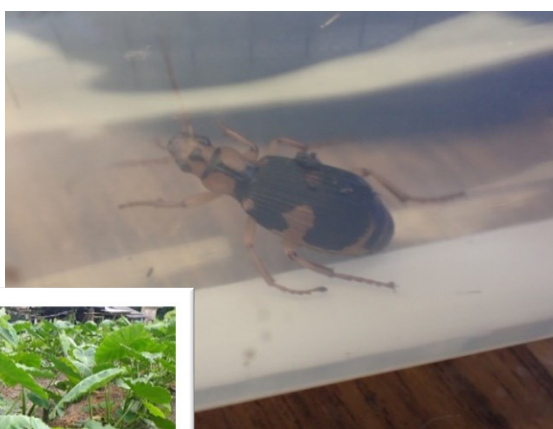
杭打ちはストレス解消になるという参加者の話で笑い有りて楽しく盛り上がっていました。



途中で一度、休憩時間を使って危険予知活動(KYK)を行いました。前半の作業で、何かヒヤリハットなどは無かったか等を共有し、安全意識を高めました。



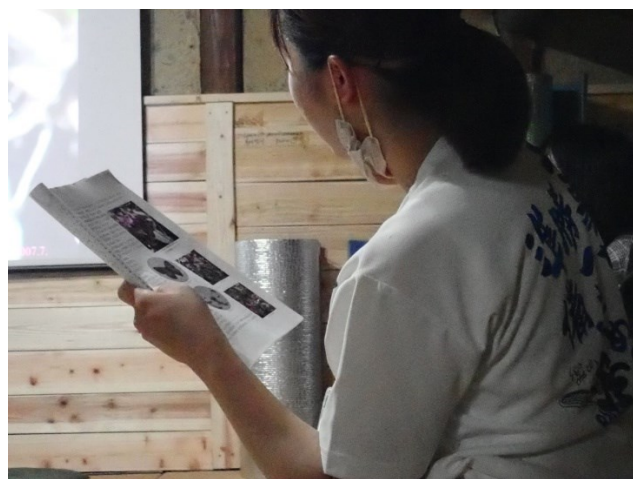
ここで奥の谷で見られた様々な生きものたち。里山の管理により沢山の生きものが生息できる環境が維持できることが、参加者には伝わったことでしょう。



午後からも雨模様なので外には出ずに、母屋の2階にて「里山保全と生物多様性」についてスライドによる講義がありました。

資料を見ながら、生物多様性について、奥の谷での活動の様子を詳しく学びました。

屋根裏部屋に相当するこの部屋は、手作りなので参加者は皆興味深そうにしていました。



最後に皆で記念撮影。

この中から、この活動地での常連メンバーが将来生まれるのでしょうか。今後が楽しみなところですよ。





最後は手を振ってお見送りして頂きました。



帰りのバスを降りて、一旦集合している様子。このあと、参加者たちは仲良く帰路につきました。



アンケートでは、「外部で学校で習うレベルの講演を聞いてよかった。」「間伐や階段づくりが中々できない体験で楽しかった。」「森・林は特に人の手を入れないと多様性を守れない環境なんだと感じました。手を入れて多様性が戻ってきたときにきれいな花や植物がたくさん咲くのが素敵だなと思いました。」「里山での環境保全活動を行うことによって日本で今急速に失われつつある環境形態を保持することに貢献することになると知って、環境保全への興味関心が深まった。」「車の音などの人工的な音が一切なく、雨や鳥の鳴き声などの自然の音と人の声だけが響いている空間はとても神秘的だったし、絶対にまた来たい！！」といった非常に好感度の高い感想が得られました。

里山管理の重要性に加え、正しい間伐の方法が体験により学べた講座となり、個々の環境マインド向上にもつながるものとなりました。